

『日本統計学会公式認定 統計検定 3 級対応 データの分析』正誤表 (第 1 刷)

該当箇所	誤	正
30p 図 3.7	下の図	最後に掲載の図参照
31p 5 行目	対数	(常用) 対数
36p 下から 3 行目	また、各階級の値を代表する値を級の代表値または階級値と	また、各階級を代表する値を階級の代表値または階級値と
38p39p 図	縦軸の単位 (人)	縦軸の単位 (日)
49p3 行目	30 日の中での最大値	32 日の中での最大値
49p 下から 7 行目	403.5 を中央値とする。	401.5 を中央値とする。
50p[例] 1 行目	30 日分のエネルギー量	32 日分のエネルギー量
57p7 行目	累積度数分布のグラフを	累積相対度数分布のグラフを
58p 図 6.2	度数分布と累積度数分布の関係	相対度数分布と累積相対度数分布の関係
59p 下から 4 行目	M と最大値の差は 29 分	M と最大値の差は 39 分
62p 4 行目	ひげの両端までの長さが範囲を表し	ひげの両端の間の長さが範囲を表し
64 p § 6.4 2 行目	一覧の手法	一連の手法
65p 表 6.2(c)	E の幅 0.52	E の幅 1.06
66 p 下から 5 行目	東京、大阪、愛知、宮城、福岡、広島である。	東京、大阪、愛知、宮城、福岡である。
75p 例題 7.1 3 行目	ばらつきが少ないのは A、B のどちらであるか	ばらつきが少ないのは那覇と札幌のどちらであるか
75p 例題 7.1 表	札幌の偏差 0, -1, -3, ..., 2 札幌の偏差の絶対値 0, 1, 3, ..., 2	札幌の偏差 0.30, -1.20, -2.60, ..., 2.30 札幌の偏差の絶対値 0.3, 1.2, 2.6, ..., 2.3
75 p 下から 3 行目	札幌地区は 1.6 度である。	札幌地区は 2.0 度である。
78p12 行目	$30 \div 90 = 0.3333$, すなわち約 33.3% で	$30 \div 100 = 0.3$, すなわち 30% で
87p 下から 3 行目	第 1 四分位数 $-1.5 \times IQR$ または第 3 四分位数 $+1.5 \times IQR$ をひげの位置にして	第 1 四分位数 $-1.5 \times IQR$ と第 3 四分位数 $+1.5 \times IQR$ の間にあるデータの最大値と最小値をひげの位置にして
97 p 1 行目	x と y の度数分布が	x と y の周辺分布が
109p 下から 4 行目	相関係数は 0.088 である。	相関係数は 0 である。
118p (答) 2 行目末尾 ～	このうち目の和が 6 以下となる場合は、10 通りである。よって、目の和が 6 以下になる確率は、 $10/36 = 5/18$ である。	このうち目の和が 6 以下となる場合は、15 通りである。よって、目の和が 6 以下になる確率は、 $15/36 = 5/12$ である。

119p1 行目	26通り	21 通り
119p2 行目	$26/36=13/18$	$21/36=7/12$
119p4 行目	目の出た方の組合せ	目の出方の組合せ
136p 問 12.1	④ AとDは独立ではない	④ AとDは独立である
167p 問 16.1 図	横軸数字 0 3.4 5.4 …	横軸数字 1.4 3.4 5.4 …
190p 問 19 選択肢④	(各年度の作付面積) - (前年度の作付面積) / (前年度の作付面積)	{ (各年度の作付面積) - (前年度の作付面積) } / (前年度の作付面積)
198p 問 5.2 1 行目	最もよく用いられる代表値は平均値であるから①は適切である。	最頻値はデータの大きさが十分に大きくないときは明確な意味を持たないため(50ページ参照), ①は適切である。
199p 問 5.3 6 行目	平均値は3.2時間以上4.2時間未満となる。	平均値は2.2時間以上4.2時間未満となる。
199p 問 6.1 1 行目	半数以上の児童は12冊以下で読んでいる可能性があることから	借り出した本の冊数が12冊以下である児童が半数以上いることになるから
199p 問 6.3	問6.3 ① ①は第2 四分位数の値を参考に考えると正しい。 ④はこのデータだけではわからない。 ⑤は①が正しいため不適。したがって①が正解	問6.3 ④ ①は同じ値の人を考えると正しくない。 ④は正しい。 ⑤は④が正しいため不適。したがって④が正解
200p 問 6.4 1 行目～	問6.4 ① すなわちI は正しい。また箱の長さは等しくないため、四分位範囲は等しくない。すなわちII は正しくない。したがって①が正解。	問 6.4 ② すなわち I は正しくない。また箱の長さは等しくないため、四分位範囲は等しくない。すなわち II は正しい。したがって②が正解。
204p 問 11.3 2 行目	確率は $6/26=1/6$ となるので,	確率は $6/36=1/6$ となるので,
205p 問 12.3	$0.2 \times 0.3 = 0.06$ $0.8 \times 0.1 = 0.08$ $0.06 + 0.08 = 0.14$ $0.06 / 0.214 = 3/7$	$0.2 \times 0.003 = 0.0006$ $0.8 \times 0.001 = 0.0008$ $0.0006 + 0.0008 = 0.0014$ $0.0006 / 0.0014 = 3/7$
207p 1～4 行目	課題	問題
211 p 問 21	[2][3]	[2-1][2-2]

